

# ありがとう 多古第二小学校

3月19日、地域の方や歴代の先生方など、たくさんの方が見守る中、多古第二小学校の閉校式が行われました。

長きにわたり地域とともに歩んできた第二小。閉校までの1年間を振り返り、閉校記念事業実行委員会の中心として関わってこられた加瀬さんと増田さんの2人と、合同事業や部活動交流など第二小との統合に向けた取り組みを進めてこられた元第一小校長の菅澤先生に話をうかがいました。



## 皆さんに支えられた統合



多古第二小学校  
閉校記念事業実行委員会  
加瀬 芳廣 実行委員長

閉校式を迎えるに当たり、平山校長先生をはじめ諸先生方、第二小を知り尽くした元校長の田中先生にはたいへんお世話になりました。

閉校記念誌「堂山」の発行においては、写真の収集や原稿依頼など実行委員の他に地域の皆さんの理解と協力なくしてはできませんでした。本業の職務に加え、閉校式にかかる時間と気配りも多く本当に大変であったかと思えます。PTAの皆さんにおかれましても通常業務の他に閉校式の対応や統合に対するご理解とご協力をいただき、敬意を表するとともに感謝申し上げます。

第一小と合同で行われた社会科見学などの授業によって、事前のコミュニケーション作りは大成功と思われ、保護者の皆さんも安心されたと確信しております。また、統合した後に「新学期になったら知らない先生ばかり」。これでは子どもたちの心に動揺があるのではないかと、そのために教育が遅れが生じてはならないとの配慮から第二小の先生方も第一小の教壇に立ちますし、メンタルケア

今、振り返ると、限られた1年間の中で内容のある充実した閉校記念事業となりました。すべての出会いが宝となり、出会えた皆さまと未来に向けて大きく前進できたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

1年前の4月に、学校目標の中で校長先生が掲げた「未来につながるキラキラ笑顔」という合言葉があります。子どもたちの素晴らしい未来の実現にはキラキラ笑顔が大切なんだということですが、第二小の閉校とともに終わってしまうということではなく、統合した後でも第一小の子どもたちと一緒に、この先も私たち第二小地区の保護者、後援会、地域が一体となって応援し続けていきたいと思っています。子どもたちの笑顔が一番地域を活性化させてくれることだと思いますので、「キラキラ笑顔」を支える、そういった統合になればいいと思います。



実行委員会の様子

の面からもスクールカウンセラーを配置し、先生方や子どもたち、保護者の方でも学校教育全般にわたって相談できる配置がなされ、新しい環境にもすぐに慣れるようきめ細かな取り組みがなされるようです。

## 地域でつくり そして支える



多古第二小学校  
閉校記念事業実行委員会  
増田 加寿子 副実行委員長

このように、第二小と第一小との統合においては、私たち実行委員の他にたくさんの方々を支えられ無事に閉校を迎えることができました。ここに改めて御礼申し上げます。

素晴らしいと思ったのは、やはり地域の中核は学校であり、子どもたちの存在なんだと気づいたことです。子どもたちを中心として、世代を超えて一体になれたということが、この1年間を通して肌で感じることもできましたし、閉校をきっかけに、この第二小地区がひとつになれたことを感じることもできました。小さな地域ですが、このような機会をいただき、まだまだ出会えていない方がいたんだと改めて思いました。

## 交流事業を通して



多古中学校  
菅澤 行男 校長  
(元第一小校長)

第一小と第二小の統合にあたり、学校側では統合準備委員会を設け、子どもたちが新しい環境に慣れるよう交流事業を実施してきました。

教育活動では、どのようなことで交流できるのかを両校の教員同士が検討しながら年間事業計画を立て、合同で体育の授業や校外学習を行ったり、課外活動のミニバスケットボールや駅伝の合同練習などを行ったりと、なるべく多くの行事を共有できるように取り組んできました。夏休みには、第一・第二小地区の子ども会と青少年相談員の協力によって合同企画された1泊2日のサマーキャンプが清和県民の森で実施され、さまざまな体験を通して子どもたちや地域の方々との親交を図ってきました。

この1年間は子どもたち、PTA、地域の方々とともに数多くの交流事業を行い、保護者の皆さんの不安も解消できるような活動してきました。これからは旧学区の枠を超えて、地域の皆さんが新生第一小として親交を深めていただきたいと思います。